総合医学会報告

2022年シンポジウム：受験生から選ばれる看護学校になるためのアイディア募集

学生確保への取り組み
－個をとらえてつなぐこと，つながること－

加藤かすみ† 久保俊英 八城 恵
髙下智香子 伊藤美栄

第76回国立病院総合医学会
2022年10月７日 於 熊本

IRYO Vol. 77 No. 6（400－404）2023

要旨 18歳人口の減少や大学志向の影響により，岡山医療センター附属岡山看護助産学校（本校）においては，量的・質的，両面からの学生確保が年々困難となっている．加えて，2020年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により教育現場にも混乱が生じ，学校運営において重要である学生確保のための学生募集活動も大きな影響を受けた．

このような状況の中で，2022年度の高校教諭を対象とした学校説明会（以下，学校説明会）をweb開催した．その中で，高校の教諭と卒業生である本校の学生とをつなぐこと，個を重視した学生募集活動を実施することの重要性に気づいた．

学生募集活動は，本校の受験を志望する方々や高校教諭との出会いであり，本校を知ってもらうチャンスである．本校を知り本校のことが記憶に残り続けるよう，つながるかかわりを実施し，受験へつなぐ．つまり，出願という意思決定に至る取り組みが必要だと考え，できることから始めてみた．

進学ガイダンスやオープンスクールに参加してくれた高校生，オープンスクールに応募したが当日欠席した高校生１人ひとりにはがきを送付した．その後，期間を少しあけて，学校の取り組みや，本校の在学生であり参加した高校生の先輩からのメッセージを送付し，本校とつながりが持てるよう取り組んでみた．高校訪問では，本校の教育や入試の概要をお伝えするのみではなく，高校側の状況把握や学生募集活動に対する希望を伺うことに重点を置いた．

その結果，学校説明会については高校個別の対応の必要性，進路相談については，対象者１人ひとりの疑問が解決して本校への受験につながるような取り組みの必要性に気づくことができた．さらに，在校生との対話により，改めて日々の教育を懸命に実施することが重要になると感じた．「個をとらえてつなぐこと，つながること」を視点とした学生確保への取り組みの課題を明確にすることができた．

キーワード 看護助学校，学生確保，学生募集活動

国立病院機構岡山医療センター 附属岡山看護助産学校 †看護師
著者連絡先：加藤かすみ 国立病院機構岡山医療センター附属岡山看護助産学校 副学校長
〒701-1195 岡山県岡山市北区田益1711-１
e-mail：kato.kasumi.vd@mail.hosp.go.jp
（2023年２月15日受付 2023年８月４日受理）
Efforts to Retain Students：Capturing and Connecting Individuals, Connecting
Kasumi Kato, Toshihide Kubo, Megumi Yashiro, Takashita Chikako, Ito Mie, NHO Okayama Medical Center Okayama Nursing and Midwifery School
（Received Feb. 15, 2023, Accepted Aug. 4, 2023）
Key Words：nursing and midwifery school, securing students, student recruitment activities

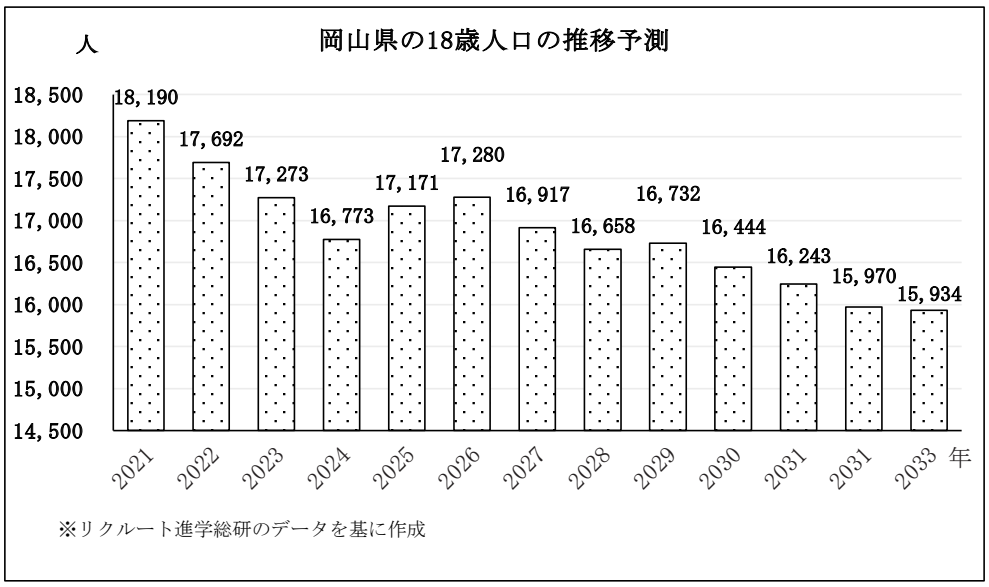

図１　岡山県の18歳人口の推移予測

はじめに

少子化の動きの中で18歳人口の減少はとどまることなく，また，大学志向の傾向が高まる中で，国立病院機構岡山医療センター附属岡山看護助産学校(本校)は学生確保において苦労している状況である．加えて2020年から新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい，学生募集活動を阻んでいることは否めない．このような状況の中で，学生募集活動に関する業者や高校が主催する進学ガイダンスへの参加，高校訪問，学校説明会，オープンスクールの開催など，方法を見直しながら取り組んでいるところである．

2022年度の学校説明会はwebで開催した．その中で，高校の教諭と高校の卒業生である本校の学生との交流会を実施したところ高評価をいただき，高校の教諭と送り出した卒業生をつなぐことの重要性に気づき，今まで個を重視した学生募集活動ができていなかったことを振り返った．

この経験をもとに，今，本校においてどのような学生確保への取り組みが必要なのか，検討して新しく始めた取り組み，今後の課題について述べる．

岡山医療センターおよび岡山医療センター附属岡山看護助産学校の概要

本校の母体病院である国立病院機構岡山医療センターは，1991年に先進国では初めてユニセフから「赤ちゃんにやさしい病院」の認定を受け，母乳育児成功のための10カ条を実践している．病床数609床，34診療科を有し，「今，あなたに，信頼される病院」を理念として，総合周産期母子医療センター，がんゲノム診療連携病院，地域がん診療連携拠点病院，地域災害拠点病院，原子力災害拠点病院，地域医療支援病院の指定を受け，岡山県南東部の基幹病院として地域医療を支える役割を担っている．

本校は，戦後，全国の３カ所に開設された看護教育のモデルスクールの１つとして，1948年に開設した．名称変更や統合を経て，2007年には看護学科120名定員の大型校として，2011年には20名定員の助産学科を開設し，博愛・叡智・自律の３つを教育理念の柱として，看護及び助産の実践者を育成している．しかし，少子化の影響，18歳人口の減少から学生確保や臨地での実習に困難を生じ始め，2019年４月に助産学科１学年定員を20名から16名に，2021年４月に看護学科１学年定員を120名から80名に減員し学校運営を行っている．

学校運営に影響を及ぼす外部環境

岡山県における18歳人口の推移予測[1]では，岡山県は減少数が多いといわれており，2021年の18,000人台から2033年には15,000人台に減少すると予測されている（図１）．また，岡山県内の進学率の推移[2]では，大学進学率は年々増加傾向にあり，2021年は49.5％で前年比較2.1％の増加となっている．一方，看護系を含む専門学校への進学率は，年によって変動があり，2021年は18.5%で前年比較0.5％の増加にとどまっている．

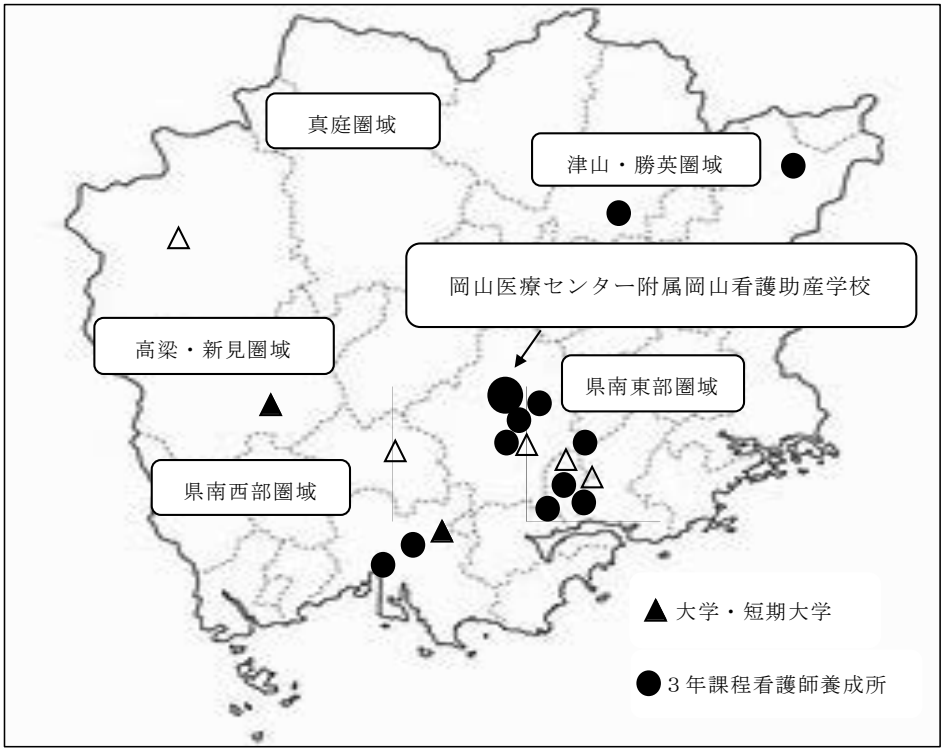

図２　岡山県内の看護師養成機関（大学・短期大学，看護師養成所３年課程）

2025年の岡山県の看護職員需給推計[3]は，シナリオ①の場合は101.5％，シナリオ②の場合は100.6％と，100％を超える推計となっている．しかし，第８次岡山県保健医療計画[4]では，本校の所在する県南東部と真庭を除く保健医療圏においては，岡山県の人口10万対の看護師数を下回っており，看護職員の確保が課題とされている．

岡山県内の看護師養成機関は，大学６校，短期大学１校，３年課程養成所12校，５年一貫校５校，統合カリキュラム１校，２年課程看護師養成所１校である（図２）．本校が所在する県南東部には，病院附属の看護師養成機関として大学が１校，短期大学が１校，３年課程看護師養成所が本校を含めて４校ある．また，本校よりも授業料が安価な３年課程看護師養成所は６校ある．国立病院機構の附属養成所の強みである「病院に附属している」こと，「授業料が安価である」ことは通用せず，学生確保に影響を及ぼしている．

コロナ禍における学生募集活動での気づき

2020年から新型コロナウイルス感染症の感染拡大により，学生募集活動は中止や方法変更を余儀なくされてきた．このような状況の中で，本校は2022年度の学校説明会をオンラインで実施した．内容の工夫としては，高校教諭と各校の卒業生，つまり，本校の入学生との交流を図ってみた．高校教諭は，「元気にしているの」「入学してよかったことは何．大変なことは」「高校の受験対策は役に立ったかな」「後輩に一言お願いします」と，嬉しそうに声をかけていた．学生は，専門的な講義や技術教育，親身な指導を入学してよかったこととして捉えており，授業時間の長さや試験の多さは大変だが，夢は叶（かな）うのであきらめないでと後輩に伝えてほしいと話していた．このやり取りを見る中で，高校教諭と卒業生である本校の入学生をつなぐことの大切さを改めて感じた．また，今までの学生募集活動は，本校主体で実施してきたのではないか，むしろ本校の受験を志望する学生や受験を志望する学生を送り出す側主体の，個に目を向ける視点での学生募集活動が必要ではないかと気づいた．

学生確保への取り組みに対する考え方

学生募集活動での気づきをもとに，本校の学生募集活動の見直しについて検討を始めた．教職員間での意見交換や学生募集活動に関するwebセミナー（ベネッセグループ株式会社進研アド，株式会社さんぽう×株式会社Doorkel）を受講する中で，受験を志望する方々が，その気持ちを維持した状態で出

願できるようアプローチすることが必要だと学んだ．学生募集活動は受験生や高校教諭との出会いであり，本校を知ってもらうチャンスである．本校を知ってもらい，本校のことが記憶に残り続けるよう，つながるかかわりを実施し，受験へつなぐ，つまり，出願という意思決定に至るような取り組みが必要だと考えた．

個をとらえてつなぐこと，つながること

2022度の学生募集活動はすでに進めている状況であったが，「個をとらえてつなぐこと，つながること」を視点とした，今できる学生募集活動を考え取り組んでみた．

長尾ら[5]は，学校見学会参加前後の参加者の受験意思について，参加後のほうが高くなっていることを示している．本校においても，ガイダンスやオープンスクールに参加してくれた高校生の受験意思を高くつなぎとめるために，高校生１人ひとりに，お礼と質問への個別対応をする旨を記載したはがきを送付した．また，オープンスクールに応募したが当日欠席した高校生にも，同様にはがきを送付した．その後，期間を少しあけて，学校の取り組みや，本校の在学生であり参加した高校生の高校の先輩からのメッセージを送付し，本校とつながりが継続して持てるよう取り組んでみた．

高校訪問では，本校の教育や入試の概要をお伝えするのみではなく，高校側の状況把握や学生募集活動に対する希望等を伺うことに重点を置いた．その結果，各校の進路指導の時期に合わせた訪問計画が重要であり，夏の時期に実施しているオープンスクールでは，高校のクラブ活動で参加できない学生がいることがわかってきた．学校生活における経費の詳細な説明の希望や，本校の入試の受験科目と高校のカリキュラム，加えて生徒の学力と照らし合わせながら，受験する看護学校や入試区分を慎重に決定している話も伺えた．

一方，本校の１学年定員を120名から80名に減員したことは，高校側にとって，受験しても合格しにくいイメージを植え付けてしまい，定員減は受験控えにつながっていることが明確となった．

学校説明会については，参加した高校教諭へのアンケート結果から，高校教諭が卒業生との交流を持つ場を設定することは継続していく必要があると感じた．また，実施方法については，学校に参集しての説明希望，webでの説明希望と高校によって違いがあり，授業や業務に応じての開催の時間帯の希望もあり，効果的な進路指導をしていただくためには高校個々への対応の必要性が明確となった．

進路相談は，個とつながる重要なチャンスである．2022年度の相談内容としては，学習についていけるのか不安という意見が目立ったため，教育内容に加え，講義や実習における教職員等のサポートの状況について，詳細に説明する必要があると感じた．また，看護学校に入学するためには，どのような高校を選べばいいのかという中学生からの問い合わせ，学業と生活の両立に関する社会人からの問い合わせがあるため，オープンスクールの時の実施に加え，随時，来校・電話・メールで進路相談に対応し，１人ひとりと対話することが必要であると感じた．

さらに，兄，姉，親戚，高校の先輩が本校に在学している，母体病院に勤務しているなど，本校や母体病院と関連を持っている在学生に，本校を選び受験した経緯などを聞いてみた．その結果，母体病院の医療・看護への興味，母体病院の医師や看護師から講義が受けられる，学校の設備や実習教育が充実している，教職員が熱心に指導してくれるなど，個から個へよい情報が伝わり，受験，入学につながっていることがわかった．受験から入学への連鎖を引き起こすためは，改めて，日々の教育を懸命に実施することが重要だと感じた．

今後の課題

まず，本校への興味･関心を持ってもらうために，どんな学校なのだろう，学校を見てみたいと思ってもらえる，その入り口となるホームページの改革に取り組みたい．

進学ガイダンスやオープンスクールにおいては，一方的に説明するのみではなく，参加者１人ひとりが知りたいこと，解決したい疑問を考慮しながら進め，参加することで想像以上だったと感じてもらい，疑問が解決したと思ってもらえるような内容や方法に変更していく．また，受験を目指す高校生は，進学ガイダンスへの参加後に，オープンスクールにも参加する．１年次，２年次，３年次と，何度も進学ガイダンスやオープンスクールに参加する状況がある．したがって，新たな発見ができるような内容・方法に変更し，加えて中学生対象，社会人対象のオープンスクールも検討していく．

学校説明会は，高校教諭対象はもとより，保護者対象も検討していく．

さらに，個々への継続した学校の情報提供においては，個人情報の活用の許可を得た上で，メールやLINEを活用して学校から個へアプローチができればと考えている．

おわりに

第76回国立病院総合医学会のシンポジウムでの発表後，推薦入試，社会人入試，一般入試を終えたが，受験生の減少は継続している．しかし，受験生から，「オープンスクールに参加した後，お礼のおはがきをいただいたので，受験しました」という声を聞くことができた．さまざまな情報通信技術を効果的に活用できる時代ではあるが，人の心をつかみ人の心を動かす学生募集活動への取り組みを忘れてはならないと考える．

本校の存在を知り，忘れず，出願まで継続した思いを持って本校を選んでもらえるよう，「個をとらえてつなぐこと，つながること」を実践し，１人でも多くの学生を確保できるよう努力していく．

〈本論文は第76回国立病院総合医学会シンポジウム「受験生から選ばれる看護学校になるためのアイディア募集」において「学生確保への取り組み　－個をとらえてつなぐこと，つながること－」として発表した内容に加筆したものである．〉

利益相反自己申告：申告すべきものなし

［文献］

1）リクルート進学総研マーケットリポート,18歳人口予測，大学・短期大学・専門学校進学率，地元残留率の動向，中国版2022；**103**：6：2（Accessed Sep.1,2022, https://souken. shingakunet.com/research/2022/06/182021-9.html）.

2）前掲書１）：６

3）医療従事者の需給に関する検討会,看護職員需給分科会中間とりまとめ,令和元年11月15日：12（Accessed Sep.1,2022,https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_07927.html ）

4）岡山県保健医療計画,平成30年４月：394, 441, 498–499, 565–566, 634–635（Accessed Sep.12022, https://www.pref.okayama.jp/page/710082.html）.

5）長尾理加，本間美穂，片野紀久代ほか．学生確保のための広報活動について，－学校見学会の効果－．愛知看専学紀2020；**13**：29–33.